

第3回 新時代とやまハイスクール構想検討会議 議事概要

1 日 時 令和7年7月3日(木) 10:30~12:00

2 場 所 防災危機管理センター2階中会議室

3 委員出席者 新田 八朗 廣島 伸一 坪池 宏 大西 ゆかり
黒田 卓 牧田 和樹 松岡 理 伊東 潤一郎
佐伯 真未 品川 祐一郎 白江 日呂雄 杉木 貴文
南部 初世 能作 千春 林 誠一 松山 朋朗

4 会議の要旨

司会が開会を宣し、知事が挨拶した。

知事挨拶

(知事)

ご多用のところ、また大変気温が高い中、お集まりいただきありがとうございます。心からお礼申し上げます。

先月、第2回の会議を開催し、大規模校の教育内容や設置場所について協議を行っていただきました。また埼玉県立伊奈学園総合高校を視察された委員からは、科目や部活動などに多様な選択肢がある教育環境の中で、生徒の皆は活気にあふれていたというご報告もいただきました。基本方針で、この大規模校がねらいとしている「生徒が多様な考え方に接することで、他者と協働して社会参加できる力をより高める」ことのヒントがここにあるように感じました。また大規模校のメリットを最大限に発揮させるためには、より大きな規模の学校を設置したらどうかという意見もいただきました。

「新時代とやまハイスクール構想」については、6月の定例県議会でも、大規模校の設置方針をはじめ、中規模・小規模校も含めた全体像や、県立高校の魅力づくり、今後の検討スケジュールなど多くのご質問をいただき、私と教育長でそれぞれ答弁をしたところです。こうした議論を踏まえて、検討を進めていきたいと思えます。

今日は3回目の会議になりますが、大規模校に関して、基本方針にある東西1校のケースと、より大きな規模の学校を県内に1校設置するケースとの比較検討を含め、さらに議論を深めていきたいと考えています。また令和20年度までに実現を目指している県立高校の全体の姿をイメージした検討を行いたいと思えます。引き続き「こどもまんなか」の視点で基本目標である「新時代に適応し、未来を拓く人材の育成」の実現に向けてどのような教育の体制がいいのか、忌憚のないご意見、ご助言をいただきますよう、よろしく願いします。

(委員)

次に、「新時代とやまハイスクール構想」に関するご意見などをお願いします。

(委員)

大規模校設置については、私自身すごく期待しています。今とても多様化が進んでおり、私自身が子どもを育てる中で、物の考え方や見方が私の幼少期とは大きく異なっていると考えています。物の需要に関しても、皆が持っているから欲しいではなく、自分自身が本当に必要で、付加価値を感じているから手に入れたいたいといったように、本当に必要なものしか購入しない時代だと認識しています。子どもたちはそういった感情で、今の教育に期待しているとも感じています。

最近海外に行くことも増えていますが、日本人は、シビックプライドがすごく低いと感じていて、教育という観点で、日本の風土や文化、富山県の魅力が伝えられる富山県の教育に期待しています。

(委員)

ありがとうございました。これから具体的な検討に移りますが、これまでの論点を整理していただきたいと思います。よろしくお願いします。

(委員)

論点整理というか、いろいろ議論が深まっている中で、そもそもなぜこの議論をしているかの確認をしたいのですが、今回の再編は、期でいうと3期目の再編になります。今までの再編は、数の議論もあり、生徒が減ってきたから再編統合しないといけないという形で、1期目に5校、2期目に4校と、再編を進めてきたのですが、今回は全く違います。これまでの再編の進め方ではなく、根本的に見直していかなければいけないということで、非常に大きく変わる世の中で、富山県の県立高校をどうしていくのかという部分が根っこになっています。その上で、まず大規模校の話をしていきますが、現在県内で1番大きい学校が8クラス規模で320名です。普通科は1番大きい学校で、6クラス240人です。これは、以前はかなり大きかったのが、どんどん小さくなってしまった結果です。調べたところ、現在、富山県の普通科の規模が全国で1番小さく、1学年6学級が普通科では最大です。基本方針は、現在最大規模の320人以上の学校を作ろうという形で、大規模校をとらえています。また、たくさんの科目から選択できて多様な考え方に接する場面を作っていくことをねらいとしています。生徒が多様な学びを実現できるように、普通系の学科を中心にする意見がこれまでも多かったと思います。また、東西にそれぞれ1校作るのか、より大きな規模の学校を県内に1校作るのか、こういう2つの意見がそれぞれ出ていたかと思います。なお、大規模校は、これまでいろいろなところで意見が出ていますが、県民の方には、イメージがつきにくく、現場の教員にもどんな学校かわかりにくい部分があります。大きな規模の学校を作るとどんな教育内容が提供できるのか。そこで学ぶ高校生は、どんな高校生なのか。どの程度いるのか。そのためには実際にどんな規模が必要で、どこに作るのかを考えていかないといけないと思います。今日は、東西に1校作ることと県内に大きい規模の学校を1校作ることのメリットやデメリットを、今一度、深く検討する会議になると思いますし、そこで決まったことは、多くの方々に伝えていく必要があると思っています。

もう1点、大規模校がかなり議論の中心になっていますが、大切なのは、中規模・小規

模を含めた県全体の事です。これも基本方針には、すべての全日制県立高校を再構築して新たな学校を開設するとしています。大規模校の方針がある程度固まったら、もしくは並行してでも、中規模・小規模も含めた今回の教育改革の全体像について検討を進めていく必要があると思います。

再編の議論は様々で、いろいろな意見がこの後も出てくると思います。委員の皆さんにも様々なご意見があると思いますが、ここでまとめた方向性は、チームとして進めていき、多くの方々にも伝えていけるようにできればと思います。

議事事項

○ 大規模校の設置方針などについて（非公開）

進行より、設置要綱第5条第3項、1号2号の規定に基づき、以後の会議を非公開とすることを委員に諮ったところ、異議はなく、以後の会議は非公開で行われた。

5 閉会

12時00分、司会が閉会を宣した。